

ハウスミカン樹の掘上げ解体調査

原田豊・坂井義春・井上宏\*

9 年間にわたってハウス栽培を続けた早生ウンシュウ樹(カラタチ台興津早生,17 年生)の掘上げ解体調査をおこない,隣接の普通露地栽培のもの(カラタチ台興津早生,16 年生)と比較した。

1. 全樹体重はハウスミカンが大きく,地上部重もハウスミカンが大きかったが,地下部重は露地ミカンが大きく,T-R 率はハウスミカンで高くなった。

2. ハウスミカンの果実収量は露地ミカンの 1.78 倍に達した。しかし,果実を除いた地上部重はハウスミカンは露地ミカンの 1.19 倍であり,葉重についてはハウスミカンは露地ミカンよりわずかではあるが少なかった。

3. 供試園は元水田土壌で,耕土が浅く,栽植距離もせまかったので,根群の水平分布は,主幹より水平距離 2m 以内にハウスミカンでは全根量の 99.8%が,露地ミカンでは 99.5%が分布していた。

根群の垂直分布では地表面から深さ 20 cm以上の範囲に,ハウスミカンでは全細根量の 76%が,露地ミカンでは 77%が分布していた。

ハウスミカンの細根量は露地ミカンの 48%に過ぎなかった。

4. 全樹体重に対する新成重の割合はハウスミカン 69%,露地ミカン 63%であった。ハウスミカンは特に果実の割合が多く,葉,枝,根の割合が少なかった。